

平成 30 年 3 月期 決算発表 (参考資料)

連結決算

1. 業績の推移

(単位:百万円、%)

	27年3月期	28年3月期	29年3月期	30年3月期	
	実績	実績	実績	実績	対前期増減率(%)
連結子会社	21社	21社	21社	21社	
営業収益	44,302	44,267	44,478	46,858	5.4
営業利益	1,240	1,503	1,426	1,455	2.0
経常利益	1,328	1,580	1,519	1,525	0.4
親会社株主に帰属する当期純利益	1,595	1,123	1,224	986	△ 19.4

【営業収益は2期連続で過去最高額】

過去最高実績 ~ 営業収益・利益

(単位:百万円)

営業収益	29年3月期	44,478
営業利益	28年3月期	1,503
経常利益	28年3月期	1,580
親会社株主に帰属する当期純利益	4年3月期	1,801

2. 次期の業績予想

(単位:百万円、%)

	31年3月期			
	第二四半期累計	対前年同期増減率(%)	通期	対前期増減率(%)
営業収益	24,500	5.8	50,000	6.7
営業利益	780	24.4	1,750	20.3
経常利益	800	22.7	1,800	18.0
親会社株主に帰属する当期純利益	530	25.6	1,200	21.6

【平成30年3月期の業績概要】

- ①トラックによる企業間輸送を主とする「輸送サービス部門」では、
- 適正な水準への運賃改定と諸料金の収受に向けた営業活動を進め、全荷主企業の約45%のおお客様にご理解いただき、5億61百万円の増収となった。
 - 港湾地区での海貨貨物、量販店・大手小売店への一般消費財の貸切輸送を取り込み、4億64百万円の増収となった。
 - 岐阜から九州への週末の下り便の2運行をJRコンテナに切り換える、モーダルシフトを昨年末から試験的に開始した。
- ②商品保管や物流加工を行う「物流サービス部門」では、
- ㈱エスラインギフ・㈱スリーエス物流での大手荷主撤退による減収分を補うために、大手流通グループの専門店向け商品や量販店向けのアパレル関連商品の加工業務の増加や、自家用車の夏・冬タイヤの保管やタイヤ入替時の配送サービスを岐阜地区で開始したが、前期に比べて減収となった。
- ③大型商品等の個人宅配や引越しを行う「ホームサービス部門」では、
- 家電量販店での白物家電等の販売増加により、配送及び設置業務が増加したことや配送料金の値上げ、大型商品の倉庫から配送センターまでの幹線輸送業務を受託したことで増収となった。
 - ㈱エスラインギフ家電物流事業部において、大型商品の取り扱い品目を増やすためにユニック車を導入した。
 - 引越しサービスの拡大については、引越し業者との協同輸送、取引のある企業の社員の転勤等に伴う引越しを始め事務所引越しの受注等、企業向け引越しに注力し、引越しサービス全体で2億40百万円の収入となった。

この結果、営業収益は、468億58百万円(前年同期比5.4%増)と、2期連続で過去最高額となった。利益面で人材確保のための人件費や取扱貨物量の増加による備車費・外部委託費の増加、燃料費、減価償却費の増加もあり、営業利益は14億55百万円(前年同期比2.0%増)、経常利益は15億25百万円(前年同期比0.4%増)となった。親会社株主に帰属する当期純利益は、法人税等の増加等があり、9億86百万円(前年同期比19.4%減)となった。

【平成31年3月期の取り組み】

平成28年度を初年度とする3ヶ年の中期経営計画の最終年度を迎え、以下の取り組みを実施する。

- ①輸送サービス部門
- 適正運賃への改定や諸料金の収受に向けた改定交渉を継続する。
 - 「総合配車センター」の体制再整備を行い、フォーワダー事業に再度取り組む。
 - ㈱エスラインギフ西淀川支店(大阪市西淀川区)を同地区に移転新築し、収入拡大に取り組む。
- ②物流サービス部門
- アパレル関連の商品保管・物流加工・配送までの一貫物流サービス獲得に向けた営業を強化する。
 - 本年11月に新築移転する㈱スワロー急送本社物流センターが、安定した収入と利益を生み出すための取り組みを進める。
 - 本年10月に移働する豊田第2センターにおいて、自動車関連部品の保管・配送業務を行い、収入増を図る。
- ③ホームサービス部門
- ツーマン配送での宅配エリアを関西・九州地区にも拡大する。
 - 「スワロー引越し」の積極的なPR活動、営業活動を行う。
 - 社内の情報公開サイト「SL-PORTAL」を活用し、引越しやツーマン配送時の作業手順、留意点等の動画配信や「引越し研修センター」での実技訓練等の講習会を行い、作業レベルの質的向上を図る。
- ④情報システム部門
- 「スワロー引越し」の拡大・事業化を目指して、引越し業務を支援する情報システムや、現場作業の早期終了、幹線車両の早期出発を図るための「貨物輸送量の見える化」を実現する情報システムの構築を進める。

3. 有形・無形固定資産の設備投資と減価償却費の状況

(単位:百万円、%)

	30年3月期		31年3月期	
	実績	対前期増減率(%)	予想	対前期増減率(%)
設備投資	1,284	△ 46.7	2,829	120.3
減価償却	1,638	9.9	1,666	1.7

※ 主な設備投資の状況(車両を除く)

- * 平成 30年3月期実績
 - 豊田第2センター(エスラインギフ): 2.3億円
 - 本社物流センター(スワロー急送): 3.8億円
- * 平成 31年3月期予想
 - 豊田第2センター(エスラインギフ): 4.7億円
 - 西淀川支店(エスラインギフ): 4.7億円
 - 本社物流センター(スワロー急送): 7.7億円